

日 時 令和6年6月26日(水)

第5校時 13:10～13:55

対 象 第6学年1組 40名

授業者 松本 美佐

会 場 6年1組教室 他

1 単元名 夏をすずしくさわやかに (東京書籍)

2 単元の目標

夏の快適な住まい方や衣服の着方と手入れについて、健康・快適・安全などの視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、夏を涼しく快適に過ごすための住まい方や着方・手入れについて考え、工夫することができる。

3 題材の評価規準

知識・技能	住まいの働きや季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について理解しているとともに、日常着の手入れの仕方を理解し、適切にできる。
思考・判断・表現	季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方や衣服の着用と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

「新編 新しい家庭5・6 私がつくる みんなでつくる 明日をつくる」年間指導計画作成資料【5・6年】より

4 指導観

(1) 題材観

関連する学習指導要領における領域別目標は以下の通りである。

B(4)衣服の着用と手入れ ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア)衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。 (イ)日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び選択の仕方を理解し、適切にできること。 イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。 B(6)快適な住まい方 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア)住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫すること。
--

ここでは、日本の夏を快適に生活するために、日光を遮って風が通る工夫をする必要があることや衣服の働きや快適な着方が分かり、自然を生かした住まい方や衣服の手入れの仕方を理解し、適切にできるようにすることをねらいとしている。

本単元では、身近な生活の中から問題を見だし課題を設定し、児童が自ら検証をしていくことで、その結果を根拠として解決策を検討する。それらを他児童に発信することで、夏の学校生活や来たる夏季休業期間の家庭生活の中で生かしてもらうことを目標とする。「健康」「快適」「安全」「持続可能（SDGs）」の4つの観点で考えさせたい。

(2) 児童観

関連する既習内容では、住生活「物を生かして住みやすく（5年2学期）」において、各自が道具箱や教室での学用品の置き場所等について、各学級が12月の大掃除の計画を立て、協働して取り組んだ。衣生活「ひと針に心をこめて（5年1学期）」「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（5年3学期）」においては、「自分でできるようになる」ことを目標に、例えば手縫いの場合は糸通しや玉結び・玉留めなどで自分に合った方法を選んで取り組むこと、ミシン縫いの場合は、一人一人がミシンの準備（糸かけ、糸通しまで）をできるよう、意図的に場を設けて自分で準備ができるように取り組めるようにした。

前単元「朝食から健康な1日の生活を」では、一人一人が学習を進めることで、調理実習の予定を決めて実践した。2学級79名全員が、自分で決めた料理、調理方法で、一人で調理することができた。

本時に関連するこれまでの学習の様子から、児童の実態として以下のことを挙げる。

- ・多くの児童は、家庭科における学習のゴールに向かって意欲的に取り組むことができる。

例えば、昨年度は道具箱の整理整頓について、全員が使いやすさや優先順位などを考えて実践でき、大掃除の計画をする際に、学級全体（※第5学年と第6学年ではクラス替えをしている。ここでは学年全体を指す）で掃除する箇所や方法について活発に意見を出し合い、分担して取り組むことができた。今年度は、学年79名全員が一人で調理実習に取り組み、終えられた。単元最後の「報告会」では、自分が単元を通して学んだことを、全員が報告することができた。

- ・知識、技能面では個人差が大きい。

当然のこととは思うが、生活体験の差や国語的な面での課題の有無が影響している。

- ・主体的に学ぶ力が弱い。

自分でよく読んだり調べたりしないで、すぐ他者に聞く児童が多い。

40人学級という大所帯で、全体として意欲的に学習に向かえる集団と言えるのは、仲間と仲良く、協働的に学ぶ力があるからかもしれない。一方で一人一人が自分事として学ぶための機会が少なくなっていたのではないかと考える。

前単元で「宿題」としなくとも、調理実習に向けて事前に家庭で実際に調理してみた児童が多数（※現時点では未調査）現れたことは、主体的な学びと課外学習との関連として興味深い（ただし、事後の課題として「今回の学習を生かし、家庭で朝食を作る」という課題を単元導入時に提示しており、かつ学習の順序は問わなかった）。今回の学習も同様に、児童が主体的に課外学習を実践することを期待する。各家庭の協力を促進するために、単元末の「夏の大プレゼン大会2024」（発表会）を告知する。参観を促すことで、本単元の学習内容への保護者の理解や家庭内での家庭科学習への興味関心を高める。このことが、児童の学びに良い影響を与えると考える。

(3) 教材観

児童は、これまでに学校生活や家庭生活で取り組んできた暑さ対策や、西東京市の「環境家計簿」に取り組む（昨年度、夏季休業中の課題とした）など、知識や経験は少なくない。しかし、実践していることで起こっている事象への理解はそれほどでもなかったり、そういった取組への理解が無く、実践していない家庭もあったりするのではないかと考える。「健康」「快適」「安全」「持続可能（SDGs）」の4つの観点で私たちが取り組んでいくと良いことを科学的に理解し、実践していけるようにするとともに、その取組を他者に広めることを目標とする。ただインターネットで検索して見つけたことをそのままなぞるのではなく、自分自身が検証してみることで理解を深め、日本の夏を快適に過ごすための取組について、根拠をもって表現させたい。

日本の夏の気候の特徴と問題点を、次のように想定する。

- ・暑い→疲れる 寝つきが悪くなる 熱中症
エアコンを使いすぎる→電気代の増加、環境問題
- ・湿度が高い→汗をかく→不快
食べ物が腐りやすい カビやすい
- ・害虫が増える→不快 寝苦しい（蚊）
- ・日差しが強い→日焼け 熱中症 エアコンが効きにくくなる
- ・雨が多い→洗濯物が乾かない

解決すべき課題を、次のように想定する。

- | | | | | |
|--------------------|----|------------|------------|------------|
| ・自然を生かしながら快適に過ごす工夫 | 快適 | 持続可能（SDGs） | | |
| ・日差しを遮る工夫 | 健康 | 快適 | 持続可能（SDGs） | |
| ・通気（通風）をよくする工夫 | 健康 | 快適 | 安全 | 持続可能（SDGs） |
| ・涼しさを感じる工夫 | 快適 | 持続可能（SDGs） | | |
| ・洗濯物を短時間で乾かす工夫 | 快適 | 安全 | 持続可能（SDGs） | |

具体的な取組や検証に必要な物を、次のように想定する。

住生活・・・通風（窓やドアの開け方）、日差しの遮り（すだれ、よしず、グリーンカーテンなど）、
伝統的な暮らし方との工夫（打ち水、ござ、涼しさを感じる色や物（風鈴など））など
→検証方法と用具

- ・通風、日差しの有無による気温や湿度の変化

○温湿度計（各教室）、温度計（理科室）、割り箸、折り紙、すずらんテープ、エアコン、
扇風機、模型、方眼紙、空き教室、校庭、屋上など

衣生活・・・衛生的な着方（上着と下着）、季節や天気、活動に合わせた着方（半袖、半ズボン）
伝統的な暮らし方の工夫（浴衣、じんべえ（甚平または甚兵衛）、日除け（麦わら帽子、日傘、上着）薄い布地、吸水性、速乾性、通気性など

→検証方法と用具

- ・布の肌触り、吸水性、速乾性、吸湿性、伸縮性、通気性などの比較、

○様々な種類の布、不要になった服、汚れた衣類、ストップウォッチ（職員室）、おもり、
たらい（家庭科室）、洗濯機（家庭科室、各家庭）、洗濯用洗剤（家庭科室、各家庭）、
洗濯ロープ、洗濯バサミ、はかり（印刷室、家庭科室）、ビニール手袋（コロナ用）、輪ゴム、
瓶、スポイト（理科室）、アイロン（家庭科室、各家庭）、空き教室、ベランダ、屋上など

食生活・・・夏野菜、そうめん、かき氷など体を冷やす食べ物、熱中症対策、食中毒防止など

※検証しづらいため、今回は住生活と衣生活に絞る。

尚、洗濯体験は、各家庭の洗濯機を用いて行うことも可とする。実際に家庭生活で使うことが多いのは洗濯機だからである。手洗いの実習については、奉仕活動にて揉み洗い、つまみ洗いを経験させたい。

各自が探求したいことに時間をかけすぎたり、計画的に進められず課題に取り組みきれなかったりすることで、必要な知識や技能が身につかないことが懸念される。「学習ナビ」に必要な事項を記載し、それを児童がチェックすることと、単元のまとめ「夏の大プレゼン大会2024」に時間をかけることで、他者の実践から学びとることができると想定する。この単元計画の妥当性については評価問題にて検証したい。

5 年間指導計画における位置付け（住生活に関する単元 全20時間）

第5学年 物を生かして住みやすく 7時間

第6学年 夏をすずしくさわやかに 8時間

第6学年 冬を明るくあたたかく 5時間（今回の学習状況によっては短縮も可能と考える）

6 単元の指導計画と評価計画（全8時間）

【参考資料】

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1)夏の生活を見つめよう ★他教科との関連:社会			
・夏の生活の特徴から、工夫していることを見つけ、課題を設定しよう。 教 p.92～93	1	①イラストや生活経験をもとに、夏の気候や生活の特徴や工夫点を出し合い、自分の生活の問題点に気付く。 ②問題点をもとに、解決すべき課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ③夏を快適に過ごす工夫を家庭で調べる。	[知技]発言・記録・行動観察 [思判表①]発言・記録
(2)すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう ★他教科との関連:理科、体育			
・夏に快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れの仕方を知り、できるようになる。 教 p.94～99	6	①調べた夏の生活の工夫を発表する。 ②気温、湿度、風通し、騒音について調べ、健康・快適・安全の視点で、生活の問題を解決するための最適な方法を考える。 ③健康・快適で安全な着方を考える。 ④家庭で調べた衣服の手入れの工夫を発表する。 ⑤衣服を気持ちよく、長く利用するための方法を調べて交流する。 ⑥手洗いの仕方を調べ、手順に従って洗濯をする。	[知技]発言・記録・行動観察 [思判表②]発言・記録 [態度①②]発言・記録・行動観察
(3)夏の生活を工夫しよう ★他教科との関連:理科			
・学習したことを、夏の生活の住まい方や衣服の着方、手入れの改善に活用しよう。 教 p.100～101	1	①学習したことを生かして学校でできる暑さ対策を話し合う。 ②わが家で夏を健康で快適に過ごすための着方や住まい方の工夫を考えて計画を立てる。	[思判表③④]発言・記録 [態度③]発言・記録・行動観察

「新編 新しい家庭5・6 私がつくる みんなでつくる 明日をつくる」年間指導計画作成資料【5・6年】より

11. 夏をすずしくさわやかに

6 年 組 番 名前()

めあて

- ①快適な住まい方、衣服の着方や手入れの仕方などを理解し、することができる。 ◎洗濯実習
 ②検証したことをわかりやすくまとめたり、夏の生活の工夫を発信することができる。 ◎プレゼン大会
 ③生活をより良くするために、課題を見つけたり検証したりすることができる。 ◎「ザ・検証」

(1)夏の生活を見つめよう		資料 教科書P.	検証してみたいこと
・ 学習計画を立てよう。			
1	①日本の夏の生活の特徴やこれまでしてきた工夫点を挙げる。(一斉) ②教科書の学習範囲を全て読む。 ③検証してみたいことを挙げる。 ④計画を立てる。	スライド ノート ワークシート 自分のノート	6 / 2 1 (金) 3 校時
(2)すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう		学習の振り返り(毎回、書いたら提出)	
2	☐ 夏の生活の工夫を調べた。 ☐ 気温、湿度、風通し、騒音について調べ、健康・快適・安全、持続可能(SDGs)の視点で、生活の問題を解決するための最適な方法を考えた。	夏の住まいの工夫 2:39 動画 夏の生活の特徴と問題点トライシート 月別気温と湿度 ずかん	6 / 2 1 (金) 4 校時
3	☐ 健康・快適で安全な着方を考えた。 ☐ 衣服の手入れの工夫を家庭で調べた。 ☐ 衣服を気持ちよく、長く利用するための方法を調べた。	日本の姿 0:53 動画 日なたと日かげの地面は? 2:51 動画 エアコンの上手な使い方 1:59 動画	6 / 2 6 (水) 4 校時
4	☐ 手洗いや洗濯機による洗濯の仕方を調べ、手順に従って洗たくをした。	窓の開け方 2:18 動画	6 / 2 6 (水) 5 校時 (本時)
5	☐ 検証してみたいことの方法を考え、実際に検証した。(協力OK) ☐ 検証したことを「ザ・検証」にまとめた。(1枚以上) ☐ プレゼン大会の準備をした。(方法は自由) ☐ 夏の生活をより良くするよう考えた。	すずしい着方 1:24 動画 かわきやすい干し方 2:37 動画 プロに聞く! 平井伸幸さん 5:30 動画	6 / 2 8 (金) 3 校時
6	☐ 検証したことを根拠(こんきょ)として使った。	深めよう11 ワークシート(PDF) 自然と上手にくらす	6 / 2 8 (金) 4 校時
(3)夏の生活を工夫しよう		学習したことを、夏の生活の住まい方や衣服の着方、手入れの改善に活用しよう。	
7	夏の大会プレゼン大会2024 次のどちらかについて、実際に取り組んでもらえるように発表する。 A 学校でできる暑さ対策 B 各家庭で夏を健康で快適に過ごすための工夫	スライド、スピーチ、ポスター等を各自で準備 メモは各自でとる。	
8	学習をふり返ろう ☐ 夏を快適に過ごすための ①住まい方 ②衣服の着方 ③衣服の手入れの仕方 ④洗たくの仕方 が分かった。	後日テスト ①フォーム(タブレットのみ) ②ワークテスト(自分のノートは持ち込み可)	

9 学習材

	学習材	内容	備考
1	学 習 カ ー ド 「学習ナビ」	教科書出版会社の年間指導計画作成資料をもとに、単元のめあて、単元末のゴールを明確にすること、知識面、技能面で身に付けさせたい内容をチェックリストに挙げること、振り返り欄を設けることが必須と考えた。チェックの有無により児童の学習状況、進度を把握し、指導に生かす。振り返りの記述内容は A4 色上質紙	スプレッドシートでの記入、提出も検討した。学習のための記録媒体は自由としたが、デジタルでの提出は便利なようでチェックがしづらいと結論づけている（1 学級の児童数が多いためかもしれない）。 クラスルームにスプレッドシート版をアップしておくことで、カードを提出している間も各自で内容を確認することができるため、課外学習に取り組みやすいと考えた。 また、デジタル資料を開きやすくした。
2	記録媒体 ・各自ノート ・ワークシート ・デジタルワークシート ・タブレット端末	・ノートは年度当初「自由」で、各自が扱いやすく記録することができればよいとした。昨年度はワークシートを配布して画用紙を表紙にして貼り足す形式。 ・ワークシートは「教師用指導書 授業展開例・ワークシート集」からそのまま印刷。これまで使用者が少なかったため 10 枚程度準備。 ・デジタルワークシートは、教科書出版社「指導書コンテンツライブラリー」から使用。 ワークシートやデジタルワークシートは、そのものを使うというよりも、参考となるよう提示している。 ・タブレット端末で作成したものは、全て担当に共有させる。	今年度、「個別最適な学び」への対応として、思い切って記録媒体を自由とした（専用ノート、余りのノート、ファイル、バインダー、場合によっては模造紙など）。当初からタブレットを使用する児童が多かったが、適切なアプリケーション（例えば文書作成、表計算、プレゼンテーションといった目的別に使用すること）を選べない姿や使用するアプリケーションによっては目的から逸脱してしまい記録に時間がかかってしまう姿（例えばプレゼンテーションに使用するわけでもないのに装飾し始めるなど）、児童間で共有してしまうことでトラブルが起こったり他児童の作品をコピーしたりする姿が見られ、かつそういった児童は主体性に欠ける傾向があったため、ノートを推奨するようにした。記述テストの際にノートの持ち込みは可とした（デジタルは不可）。
3	QR コンテンツ	教科書から自動も読み取れる。学習ナビに全てリンクを添付したことで、「まずは一通り見てみよう」となれば、学習内容の概要を掴みやすくなると考えた。 	・スライドノート（全時間分 6 枚） ・夏の住まいの工夫 2:39 動画 ・夏の生活の特徴と問題点 トライシート ・月別気温と湿度 図 ・日本の姿 0:53 動画 ・日なたと日かげの地面は？ 2:51 動画 ・エアコンの上手な使い方 1:59 動画 ・窓の開け方 2:18 動画 ・すずしい着方 1:24 動画 ・かわきやすい干し方 2:37 動画

			・プロに聞く！ 平井伸幸さん 5:30 動画 ・深めよう 11 ワークシート (PDF) ・自然と上手にくらす 1:08 動画
4	「THE 検証」 ワークシート	夏を快適に過ごすための解決策はなぜ有効なのか、実験方法を考え検証した結果をまとめるワークシート。目的を①児童が互いに学ぶ合うこと②児童が互いに意欲を高め合うこと③教員が児童の進捗管理をしやすくするために廊下に掲示することにした。 誰から見ても結果が分かるよう数値化することや、他児童から指摘や助言を受けたら再度検証してみる、他児童の実践を見て自分もやってみてもよいことなどを事前に指導する。	前単元の、栄養バランスを考えた朝食の提案ワークシートでは、掲示物を見ながら児童が思ったことを呟いたり、互いに意見を言い合ったりする姿が見られた。気付きを促すことができ、有効であると考えた。しかし、掲示前にチェックをし始めると、自然長蛇の列が作られてしまったため、誤字脱字のチェックのみとした。明らかに誤答であるものもあった。掲示後個別に声をかけても粘り強く手直しをするか放っておくかは児童による。そこまでの段階で評価して終わってよいのかが悩みどころである。
5	衣類、布	様々な素材の衣類（冬に適したものも混ぜている）と布を置いておくことで、実際に触れ、素材や形状等の共通点や相違点に気づき、衣服の役割や夏に適した素材への理解を深める。	あくまでもこれらがヒントとなり、家で衣類を調べてみたり、不要になった衣服を実験に使ったりすることを目的とした。家庭の協力が得られない場合もあるため、実際に洗濯をさせたり着用させたりなどは臨機応変に対応したい。
6	チラシ	夏の生活に必要なものや、持続可能かどうかや文化的なものなど視点を増やすヒントとなると考えた。	学区域のチラシであれば、市場調査にも繋がると考える。
7	常設備品等	温湿度計（各教室）、温度計（理科室）、エアコン、扇風機、模型、ストップウォッチ（職員室）、たらい（家庭科室）、洗濯機（家庭科室、各家庭）、洗濯用洗剤（家庭科室、各家庭）、洗濯ロープ、洗濯バサミ、はかり（印刷室、家庭科室）、スポット（理科室）、アイロン（家庭科室、各家庭）	日当たりによる温度の違いを検証するためにサーモテープ（示温テープ）を購入を検討したが、「あるもので」「今の環境で」工夫することを重視した。このように、代替物を探したり代替案を考えたりすることも必要な力と考える。どこまで何を揃えていくかが、今後様々な教科で検討が必要になると考える。
8	消耗品	割り箸、折り紙、すずらんテープ、方眼紙、不要な布、ビニール手袋、輪ゴム	置いておけばやってみよう となると考え、準備したが、どうであったか。

7 学習環境整備

・教室と家庭科室までの距離的課題について

調理実習の際は、保護者から「学習見守りたい」を募集することで、安全管理を徹底したが、結局担当は調理の場から離れない方がよいと判断し、家庭科室に居続けた。教室と meet を繋いでおくことで、教室の児童に声をかけるなどをしたが、主体的に学習に取り組めない児童が現れたこと、個別の学びの様子が把握できなかったことなど課題が残った。このことを反省に、もう一方のクラスでは調理をしない者も教室の後方で調べ学習をしたり、調理をしている他児童の姿から学んだりするよう学習方法を変更したが、テーブル位置等の変更が効かないため、必ずしも学習しやすい環境ではなかった。

本校では、家庭科室と廊下を挟んで隣接する理科室では、Wi-Fi が使えずタブレット端末で学習を進めにくい。そのため教室か家庭科室のいずれかで学習を進めることとなる。学習材を一通り見た上で調べ学習や実験に取り組めるよう、意図的に一斉指導の教室を設定したい（6年1組では準備が間に合わなかったため、2組で実践する）。

2教科での単元内自由進度学習に取り組むことが解決策だと考える。2学期「思いを形にして生活を豊かに」で挑戦したい。

・家庭科室

今回はアイロンや洗剤を使う際のみ、安全管理の徹底が必須となるが、それ以外の物に授業時間中は自由に出入りさせやすい。ただし、温度計や割り箸など場合によっては危険が生じるものもある。一般的な校舎内でのルール遵守が前提となる。

通常時はミシンが置いてある教室周囲の棚に学習材を設置する。

・物品利用表

必要なものを使用したり持ち出したりする場合には表に記名させることで、物品の管理や学習の経過の把握をするとともに、物を扱うことへの責任感をもたせる。

・その他教室等

図書室、ホール、ピロティ、校庭は日頃の決まりを守ること、行く際に必ず担当に声をかけることを条件に自由に行ってよいこととする。理科室、屋上、その他空き教室は立会いが必要であるため、予め声を掛けてまとまって移動する。どの場合も、目的が明確であることが必須である。

・保護者の支援

家庭学習を推進するために、単元末の「夏の大プレゼン大会2024」の参観を促す。これにより、学習の過程での知識・技能面でのフォローが期待できると考える。また、多くの参観者を得ることで、児童のアウトプットへの意識を高める効果も期待できる。

8 目指す児童の姿

「主体的に学習に取り組む態度」として望ましい姿

- ・聞く前にまずは自分で教科書を読む。
- ・読んだり調べたりしても分からなかったことを明確にして人に聞く。
- ・自分なりに結論が出ても、友達から学ぼうとする。
- ・不明なこと、不確定なことを調べたり、聞いて確認したりする。
- ・自分と他者の学習状況と比較し、進度を調整できる。
- ・進度を調整するため、また自分が検証したいことのために授業時間外や家庭で自主的に取り組む

ことができる。

- ・自分の学習を振り返り、改善したいこと、次に取り組みたいことを言語化できる。
- ・学習したことを、生活の中で実践しようとする。

「思考・判断・表現」において望ましい姿

- ・自分が設定した課題にあった検証方法を見つけようとする。見つける。
 - ・実現可能な検証方法を見つけようとする。見つける。
 - ・やってみることができる。
 - ・失敗したと思うことの原因を探る。
 - ・より良いと思うことを見つける。
 - ・改善してさらにやってみることができる。
 - ・複数の視点（「健康」「快適」「安全」「持続可能（SDGs）」）で考えることができる。
 - ・自分に合った方法で学んだことをまとめたり表現したりする。
 - ・他児童の発信から良い点を見付け、自分に生かそうとする。

「知識・技能」を身に付けるために

- ・単元末までに「学習ナビ」のチェック項目に全てチェックが入っている。
- ・生活の中で実践してみることで理解を深めたり、定着させたりしている。
- ・夏の生活の工夫について、それによってなぜ快適になるかなど、取組と事象との繋がりを理解している。

9 前時までの児童の様子

1、2時間目の児童の姿	人数	割合
教科書をあまり読めていない（ほぼ開いていない）	2 人	5.6%
集中力に欠ける	4 人	11.1%
ノートにメモをしたり、まとめ始めたりしている	8 人	22.2%
タブレット端末で作成したものを授業者に共有している	15 人	41.7%
授業中にタブレット端末を開いて資料を見ている	34 人	94.4%
課外学習に取り組もうとしている（授業中の発言）	4 人	11.1%
（振り返りでの記述）	17 人	47.2%
検証してみたいことを「学習ナビ」に書いている	36 人	100.0%
学習ナビにチェックを1つ以上入れている	21 人	58.3%
振り返りを書いている	35 人	97.2%
振り返りに、学習して分かったことを書いている	8 人	22.2%
振り返りに、自分の学習の進め方や次回取り組みたいことを書いている	33 人	91.7%

（全 40 名、内欠席 4 名、計 36 名）

10 本時の指導（全8時間中の第4時）

（1）本時の目標

- （ア）住まいの働きや季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について理解する。（調べ学習）
- （イ）日常着の手入れの仕方を理解し、適切にする。（洗濯実習）
- （ウ）季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践する。（課題解決）
- （エ）季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善したり、考えたことを表現したりする。（課外学習における課題解決後の発展的な課題解決またはまとめ）

（2）本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項
導入 5分	○本時の学習の見通しをもつ。 ・進行状況の確認 ①学習ナビへのチェック数 ②検証が進んでいるかどうか ・学習ルールの確認 ①検証は協力してもよい ②記録やまとめは各自で行う ③教室外へ行く時は申告する 理科室、屋上の希望確認 ・検証したら「THE 検証」を掲示 結果がどうであれ必ず作成する。 ・4つの視点の確認	・学習ナビに沿ってどの程度進んでいるかを知ること で、自分の学びを調整させる。 ・ルールを守ること安全管理を徹底する。児童間で互いの学びを妨げないようにするとともに、教師が児童の学びを妨げないようにする。 ・検証が無駄に終わったり、失敗したとしても、その後どう考え、次の検証に向かうかが大切であることを伝える。 ・板書掲示することで時間短縮を図る。
展開 35分	○各自の計画に沿って学習する。 ・調べ学習 ・洗濯実習 ・課題解決 ・まとめ、資料作成	・前時に洗濯実習をした児童の干す場所を限定させておく。ベランダは他学年の安全管理、生活指導面を考慮して、休み時間には行かせない。 ・学習に向かう様子を記録し、次時に生かす。 ・学習ルールを守っていない場合は即注意をするが、それ以外は基本的に児童の活動を止めないよう巡視や声かけを行う。 ・別の場所で活動している児童にはタイマーを渡す。
終末 5分	○学習の振り返りをする。 ・「学習ナビ」にチェックを入れる ・学習の振り返りや今後取り組みたいことなどを記述する。	・5分間私語は禁止とし、じっくりと学習を振り返ったり次の学習について考えたりできるようにする。 ・「学習ナビ」は毎回提出させる。

（3）本時の評価

- ・本時の目標（ア）～（エ）に向けて、粘り強く取り組むことができた。（行動観察）
- ・本時の目標（ア）～（エ）を達成している。（記述、ワークシートやノート等、行動観察）